

たたら製鉄 簡易炉で体験

松江で中高生 ものづくり楽しむ

たたら製鉄の体験で鑄出しに挑戦する参加者。松江市八雲台1丁目、松江南高校

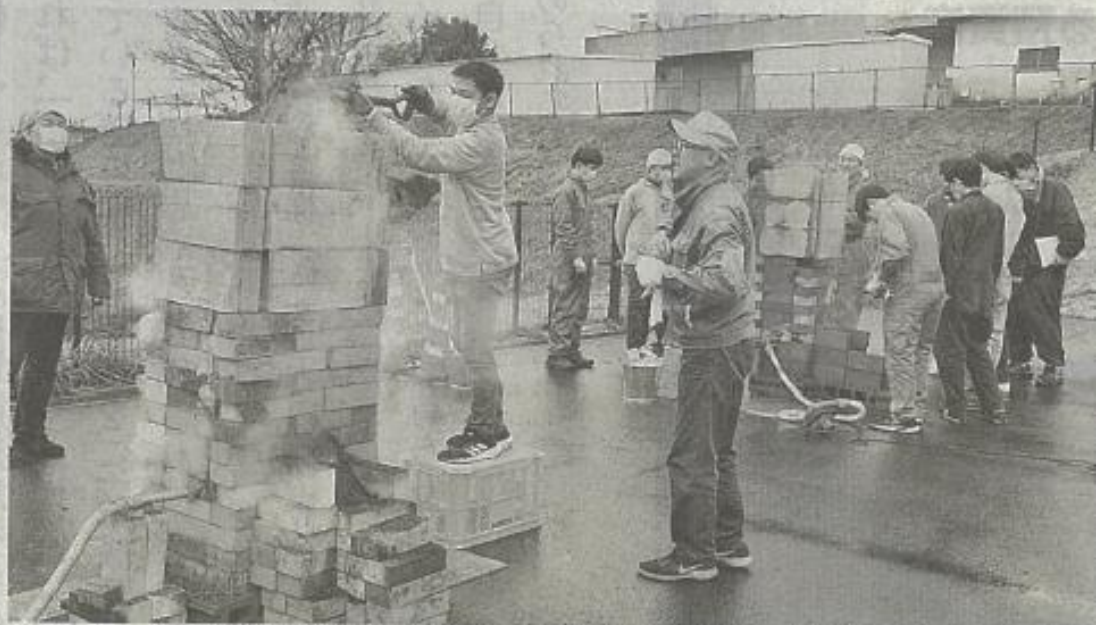


伝統的な製鉄方法「たたら製鉄」の実習体験会が21日、松江市八雲台1丁目、松江南高校であった。島根県内外の中学、高校生など約40人が簡易式の炉を造り、砂鉄と木炭で製鉄する仕組みを学んだ。

たたら製鉄を通してものづくりへの興味関心を持つてもらおうと、学識経験者などの任意団体「ものづくり教育たたら」(会長・永田和宏東京工業大名誉教授)が企画。参加者は永田会長(78)などの指導を受け、れんがや建築用ブロックを積み上げて高さ1・4メートルの簡易炉を4基造り、砂鉄や木炭を交互に投入して

(石倉俊直)

たたら体験 出来栄え競う



炉に砂鉄を注ぎ込む生徒(左から2人目)(松江市で)

松江で中高生ら80人

古来の製鉄法「たたら製鉄」を通じ、ものづくりの楽しさを知る「たたらサミット」が20、21日に県内で初めて開催された。県内外の中生ら延べ約80人が参加し、専門家による講演や

操作体験を通じ、たたら文化の奥深さを学んだ。

サミットは、「永田式たたら」と呼ばれる簡易式の操作方法を考案した永田和宏・東京工業大名誉教授らでつくる団体「ものづくり教育たたら」が企画した。団体は東京や北海道などでサミットを開いている。

21日には県立松江南高で操作体験があり、県立横田高(奥出雲町)など県内外の4校の生徒らが参加。チームに分かれてレンガなどで炉を組み立て、炭や砂鉄を注いで「ケラ」と呼ばれる鉄塊を1日ばかりで作り、出来栄えを競い合った。

出雲市立斐川西中2年の内部直人君(14)は「砂鉄やブロックを運ぶのが大変だったが、地元の文化を体験できて楽しかった」と笑顔だった。